



出来形管理基準及び規格値

現行 (令和4年版)										改定 (令和5年版)										改定理由						
編	章	節	条	表番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	備 考	編	章	節	条	表番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	備 考					
3	2	3	28		プレキャストカルパト工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所、施工延長40m (または50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。				3	2	3	28		プレキャストカルパト工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所、施工延長40m (または50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。						
						※幅w	-50																			
						※高さh	-30																			
						延長L	-200																			
3	2	10	10		地中連続壁工 (柱列式)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合)は25m)につき1ヶ所、延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		D: 杭柱	3	2	10	10		地中連続壁工 (柱列式)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合)は25m)につき1ヶ所、延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		D: 杭柱					
						連壁の長さℓ	-50																			
						変位d	D/4以内																			
						壁体長L	-200																			
3	2	12	1	2	鋳造費 (大型ゴム支承工)	幅w	w, L, D ≤ 500	0 ~ +5			3	2	12	1	2	鋳造費 (大型ゴム支承工)	幅w	w, L, D ≤ 500	0 ~ +5	製品全数を測定。 平面度: 1個のゴム支承の厚さ (t) の最大相対誤差 詳細は道路橋支承便覧参照						
						長さL	500 < w, L, D ≤ 1,500mm	0 ~ +1%																		
						直径D	1,500 < w, L, D	0 ~ +15																		
						厚さt	t ≤ 20mm	±0.5																		
							20 < t ≤ 160	±2.5%																		
							160 < t	±4																		
						相対誤差	w, L, D ≤ 1000mm	1																		
	1000mm < w, L, D	(w, L, D) / 1000																								
3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	部材精度	フランジ幅 w (mm)	±2... w ≤ 0.5		1型鋼桁 トラス弦材		3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	部材精度	フランジ幅 w (mm)	±2... w ≤ 0.5	主桁、主構各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。 なお、JISワーク表準品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。		1型鋼桁 トラス弦材			
							h (mm)	±3... 0.5 < w ≤ 1.0																		
							腹板高 h (mm)	±4... 1.0 < w ≤ 2.0																		
							腹板間隔 b' (mm)	± (3 + w / 2) ... 2.0 < w																		
3	2	12	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (mm)	0 ~ +30				3	2	12	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (mm)	0 ~ +30	製品全数を測定。 両端部及び中央部付近を測定。					
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 delta 1 (mm)	±4																		
							フィンガーの食い違い delta 2 (mm)	±2																		
							(実測値) delta:																			

出来形管理基準及び規格値

現行 (令和4年版)										改定 (令和5年版)										改定理由										
編	章	節	条	支番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	編	章	節	条	支番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所											
6	1	9	5	1	鋼製堰堤本体工 (不透通型)	水 通 し 部	堰高▽	±50	1. 図面に表示してある箇所を測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堰高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		6	1	9	5	1	鋼製堰堤本体工 (不透通型)	水 通 し 部	堰高▽	±50	1. 図面に表示してある箇所を測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堰高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		測定箇所 脱字								
							長さ $\phi_{2+0}$	±100										幅 $w_1, w_3$	±50				下流側倒れ△	±0.02H <sub>1</sub>	袖高▽	±50	幅 $w_2$	±50	下流側倒れ△	±0.02H <sub>2</sub>
							袖高▽	±50										幅 $w_2$	±50				下流側倒れ△	±0.02H <sub>2</sub>						
							幅 $w_1, w_3$	±50																						
							下流側倒れ△	±0.02H <sub>1</sub>																						
							袖高▽	±50																						
							幅 $w_2$	±50																						
8	6	4	3		吹付工	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。(1)～(7)および断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、「道路トンネル技術基準(構造編)」にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。		8	6	4	3		吹付工	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。(1)～(7)および断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、「道路トンネル技術基準(構造編)」にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。		脱字										